




林業福島

No. **614**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

10 2015

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 鎮守の森



野生鳥獣被害対策の重要性

福島森林管理署長
長 江 恭 博

八月一日付で就任しました。よろしくお願ひします。

さて、今春、前任地の群馬森林管理署で下刈・獣害防除作業を発注する際、落札者の決定方法が造林請負事業では珍しい総合評価落札方式だったため事業費を調べると、総額八千万円弱のうち下刈に係る分は二千万円ほどで、残りは獣害防除の経費（ポリ被覆設置、忌避剤塗布）でした。つまり、被害をもたらず動物（この場合はニホンジカ）が適正密度以下であれば、事業費のうち六千万円弱はつる切り・除伐や林業専用道の作設等別の作業に使えたわけです。

群馬県によれば、平成二四年の県内のシカの推定生息頭数は一七、一八五頭と、平成九年の七、六〇〇頭に比べ十四年間で約二・三倍に増加しているそうです。福島県でも、群馬県や栃木県の積雪の少ない地域で越冬したシカが檜枝岐村の尾瀬地域に侵入し、生物多様性や景観に多大な影響を及ぼしています。野生鳥獣の研究者によれば、シカの雌は二歳になれば毎年一頭の子供を出産し、優に十年以上は生きるため、シカの年間増加率は冬季にエサの確保が難しい多雪地域で一五割程度、雪の少ない地域では二〇割に達するそうです。また、学術調査によれば、五〇センチ以上の積雪がある日が延べ十日未満であれば通年生息できると推定されています。このようなことから、環境省は「積雪の少ない西日本や東日本の太平洋側では、分布が拡大していく可能性が高い」としています。

原発事故のため野生鳥獣の肉における放射性核種の濃度が基準値を超える福島県で、仮に捕獲圧がゼロになったとすると、十年後のシカ個体数は中通りや浜通りでは六倍強、雪深い会津西部でも四倍になると計算されます。適正レベルを超えたシカの生息密度を下げるには、経験上、少なくとも五年間にわたり生息数の三割前後を毎年捕獲する必要があります。ハンターの減少・高齢化が進む昨今、これは容易なことではありません。このため、手遅れにならないよう、対策を今のうちから用意し、着実に実行していくことが極めて重要です。

《も く じ》

とびら	
野生鳥獣被害対策の重要性	
福島森林管理署長 長江 恭博…	1
トピックス	
「森林・林業活性化推進福島県議会議員連盟の森」植樹式の開催について…	2
福島県における木質バイオマスの現状について…	3～4
森林・林業体験事業…	5

森と遊ぶ交流会…	6
緑の募金コーナー…	7
「自然に親しむ」…	8
普及指導員通信…	9
森林管理署メモ…	10
木連だより…	11
木材市況・ふくしま東西南北…	12
はなしのひろば…	13

「森林・林業活性化推進福島県議会議員連盟の森」 植樹式の開催について

福島県森林計画課

平成三〇年の第六九回全国植樹祭の本県開催決定を記念し、八月二二日（土）に、全国植樹祭開催予定地である南相馬市の海岸防災林において、森林・林業活性化推進福島県議会議員連盟（以下、「議員連盟」という。）による植樹式が開催された。

議員連盟は、平成元年に設立され、現在、県議会議員全員が加入し、福島県の森林・林業・木材産業の活性化推進に向けた様々な活動を行っています。これまで、全国植樹祭の招致に向けた活動も行ってきており、平成三〇年の本県開催決定を記念するとともに、震災からの一日も早い復興を祈り、開催することとされたものです。

植樹式当日は、前日からの雨もあり、議員連盟会員、南相馬市長をはじめとする来賓の方々に加え、地元のお子さんやご父兄の皆さんな

ど、約一五〇名の参加となりました。議員連盟会長、来賓の挨拶に引き続き、植樹式開催を記念した標柱の設置、代表者によるハマナスの植栽を行った後、参加者全員でクロマツコンテナ苗の植樹活動を行いました。特殊な機材を使つての植穴掘りや、植え付け後の根元に育樹マットを設置して竹串を打ち込み固定するなど、参加者の皆さんは慣れない作業に四苦八苦しながらも、皆で協力し合いながら、四〇〇平方メートルの区域に四〇〇本の苗木を植栽しました。

最後に、植樹活動に汗を流した海岸防災林をバックに、参加者全員で記念撮影を行いました。写真に写つた参加者は、皆、爽やかな笑顔です。植栽された苗木が将来、海岸防災林の再生に大きく寄与するとともに、全国植樹祭が開催される平成三〇年には、大きく成長していることが期待されます。



参加者全員による植樹活動



記念標柱の前で議員連盟による記念撮影



参加者全員による記念撮影

福島県における 木質バイオマスの現状について

福島県林業振興課

1 はじめに

「木質バイオマス」とは「木材（立木）」からなる「バイオマス（生物資源（bio）の量（mass）」のことで、意味としては「再生可能な、木材由来の有機性資源」となります。

この直訳をそのまま当てはめると、立木から生産されるものすべて、用材や製紙原料といったものも含まれることとなりますが、一般的に「木質バイオマス」とは、木材の生産活動に伴う副産物である未利用間伐材・林地残材（枝葉、梢、端材、低質材等）や、製材工場等の残材（樹皮や端材等）の他、廃棄物系木質バイオマス（住宅の解体材など）を指し、その利用用途としては主に燃料となっています。

2 県内の木質バイオマスエネルギーの利用について

木質バイオマスのエネルギー利用を推進することは、本県の森林の再生と林業・木材産業の振興を図るための重要施策であり、復興に向けた主要なエネルギー施策の柱にも繋がるものです。

平成二五年三月に策定した「福島県木質バイオマス安定供給の手引き」では、本県における木質バイオマスエネルギー導入の目的を次のとおりとしています。

- ・ 県産材の有効利用による林業・木材産業の振興
- ・ 森林整備の促進
- ・ 山村地域の活性化
- ・ エネルギー自給率の向上

- ・ 廃棄物の利活用による、循環型社会の形成
- ・ 二酸化炭素の排出抑制による地球温暖化防止

県内の木質バイオマスエネルギー利用施設（チップボイラーなど）において平成二六年度に利用された木質燃料（丸太・林地残材、工場発生残材、建築発生材等）は、六〇万ト程度でした（主に外材を利用する混焼施設を除く）。

木質燃料は、従来から暖房や給湯施設、木材乾燥などの用途に使用されてきましたが、近年では発電への利用も増加しています。また、震災を契機に、近隣からの燃料調達が比較的容易であることから、災害時対策を兼ねて木質燃料の利用施設が導入される事例も見られます。

3 さらに利用拡大について

木質バイオマスの利用施設は近年増加の傾向にあり、特に発電施設については再生可能エネルギー電力買取制度（FIT）で未利用材利用の場合の買い取り価格が比較的高価に

設定されている（一割アワー当たり二、〇〇〇割未満の施設四〇円＋税、二、〇〇〇割以上の施設三二円＋税）ことなどから、県内外を問わず多くの計画が立てられています。

昨年度の県内での木質燃料利用量約六〇万トのうち、製材端材などを除く国産材由来の丸太の量は約一二万トであり、これを県の基本的な換算率（一ト＝一・四立方ト）で換算すると一七万立方ト程度の原木利用量となります。

平成二五年三月七日に策定した「福島県木質バイオマス安定供給指針」によると、福島県における木質バイオマス燃料の利用可能量は、年間最大約八四万立方トと見込まれていますので、今後まだまだ利用が可能な資源と考えられます。

しかし、木質バイオマス利用施設は、大規模な施設であるほど木質燃料が現実的に「調達が可能」であるかどうかを確認する必要があります。木質バイオマス利用施設の整備にあたり、事前調査が必要な点として次のような項目が挙げられます。

・集材可能地域における燃料用材の資源量は十分か

（他の用途と合わせても地域の生長量を超えないか）

・チップ工場における製造能力で十分対応可能か

（能力が不足するなら製造施設等の整備が必要）

・素材生産・供給能力、担い手は十分か

（燃料用材は建築用材などの生産に合わせて生じる未利用材のため、燃料用材外の需要増加の見込み、増加するそれらの用材を含めた生産供給に対応できる施設の集約化、路網等の整備、担い手の確保は図られているか）

木質バイオマスエネルギーの導入と利用拡大を図り、持続的に森林資源を活用していくためには、燃料となる木材の安定供給と、木材チップ等の燃料製造施設の整備、また、木質バイオマスの需要を一層拡大していくことが極めて重要です。

このため県では、木質燃料の安定供給に向けて作業道の整備や高性能

林業機械の導入、燃料製造施設の整備などを支援するとともに、木質バイオマスの需要創出を図るため、公共施設等のボイラーや民間施設のス

トープなど、木質燃料を利用する施設の導入促進に取り組んでいます。

4 身近な利用について

現在、木質バイオマス燃料を利用する大型施設の導入が進みつつありますが、従来、木材を燃料として利用することは、日々の生活の一部として、欠かすことができないものでした。

燃料革命以降、日常生活での薪や炭の利用は大きく減りましたが、近年、燃料供給や管理のしやすいペレットストーブや薪ストーブが発売されるようになり、灯油暖房やエアコンとは異なる柔らかい暖かみや、燃えるところを見て楽しめる、料理もできるなど、通常の暖房機とは違った点を求めて家庭などに導入される事例が見られるようになりました。

気軽に木質バイオマス燃料を利用・体験できるこれらストーブの利用について、是非ご検討ください。



燃料の保管、供給が容易なペレットストーブ



最近の薪ストーブは副次燃焼機能が付き熱効率が格段に向上しています

森林・林業体験事業

（公社）福島県森林・林業・緑化協会

（公社）福島県森林・林業・緑化協会では、去る八月十七日（月）に二本松市及び安達郡大玉村において、高校生を対象とした「森林・林業体験事業（現地体験型）」を開催しました。

この事業は、キノコの魅力や、森林のもつ癒しの効果を体験し、森林・林業への理解を深めていただくことを目的に実施したものです。

体験事業に参加された岩瀬農業高校の皆さんから、感想文をお寄せいただきましたのでご紹介いたします。

「森林・林業体験事業に参加して」

今回、岩瀬農業高校園芸科三年六名、生物工学科一年五名の生徒十一名、引率一名で、キノコ生産施設体験と森林セラピー体験の内容を中心とした「森林林業体験事業（現地体験型）」に参加させていただきました。学校出発後、早速バスの中で、「福島県のきのこ生産に関する現状」について、職員の方にはっきり事前学習をさせて頂きました。その後、

ナメコの栽培施設見学後、実際にナメコの収穫を行い、隣接する農家レストラン「東和季の子工房」にて収穫キノコを用いたピザ作りの体験と昼食もいただきました。参加生徒たちは「栽培の現場を見たのは初めて」「採れたての鮮度があるから実現可能なシャキシャキの食感を味わえたのが、とても贅沢！」等、どれも初めての体験に感激していました。昼食後、担当講師の武藤一夫氏より、自身の就農から養蚕業、その後のナメコ栽培から現在の農業と農家民宿、農家レストランの経営のスタイルに至るまでや、東日本大震災の影響と農業が抱える課題や未来への展望などをお話し頂きました。終始、実体験に基づく説得力のある話と前向きな言葉の選び方に、生徒たちもどんだん惹きこまれ、目を輝かせていました。

続く、大玉村「県民の森」での森林セラピー体験では、もりの案内人である権藤齊嗣氏と平野健一氏にセラピーコースの散策案内をして頂き

ました。参加生徒たちは「松ぼっくりのエビフライが面白かった！」「葉のアートが印象的でした。」「森の空気をたくさん浴びて体も心もすっきり軽くなった気がする。」等、早くも森林セラピー効果を感じる生徒もいたようです。最後に参加生徒たちは「この学びを今後の自身の進路を決定するうえで大切な道しるべとしていきたい。」「自分だけの学びや経験とせず、友人や家族にも今日の出来事を伝えていきたい。」等の感想を述べていました。

最後に、企画の段階より協会職員の方には色々ご尽力いただき、農業高校の実態に沿った内容を考えて頂きました。食育も含んでもらう等、入口を広く持つて頂いたおかげで、生徒たちもそこから森林の役割や現状についての理解へ繋げることができたと感じます。今後も、福島県の多くの高校生に森林や林業、そして農業の力に実際に触れ、感じ、考えることを学ぶ機会があることを希望します。

この度は、本校生にこのような学びの機会を頂きましたこと、また、この事業に携わってくださった全ての皆様にご心から感謝いたします。本当にありがとうございます。

福島県立岩瀬農業高等学校

教諭 藤田さとみ

感想文 生徒氏名

阿部寿々奈、大甕 泉希、近内

実咲、鈴木 仁美



収穫したキノコでピザ作り



森林セラピー体験「葉のアート」

森と遊ぶ交流会

(公社) 福島県森林・林業・緑化協会

八月八日(土) ふくしま県民の森
フォレストパークあだたらにおいて
「森と遊ぶ交流会」を開催しました。
これは、次代を担う子どもたちに、
緑の少年団や各地域の子どもたちと
の交流を深めながら森の中で遊ぶ機
会を提供することにより、森林との
ふれあいを取り戻し、緑の少年団活
動など子どもたちの森林づくり活動
を推進し、豊かな森林を次世代に継
承することを目的に福島県と当協会
が共催で開催したものです。

交流会には県内の小学生及び保護
者、県内の緑の少年団団員及び育成
会員、フォレストパーク利用の小
生及び保護者等総勢二四一名が参加
しました。

交流会は、午前中が木工クラフト、
オリエンテーリング、ツリークライ
ミング、午後は火おこし体験、キッ
クターゲット、丸太切りタイムトラ
イアル、タガ回し、自然観察会、ツ
リークライミング、福島ユナイテッ
ドFC選手とのミニサッカーゲーム
と多彩な内容でした。これらはそれ

ぞれの会場に分散して行うため、混
乱も心配されましたが、もりの案内
人をはじめとする多くの関係者と参
加者のご協力により、円滑に進める
ことができました。参加者は、自分
が一番したいことができた満足感か
らか晴れ晴れとした表情でした。

全てのプログラムが終了した後、
分散していた参加者が一堂に会して
交流会が開かれました。交流会
の開会式の席上において、緑や森林
に関する活動、地域における奉仕的
な活動を行うなどの優れた緑の少年
団として、公益社団法人国土緑化推
進機構から「みどりの奨励賞」を授
与された矢祭山みどりの少年団(矢
祭町)に、渡邊裕樹福島県緑の少年
団育成協議会長が代行して表彰状を
伝達しました。その後、受賞した当
該少年団から御礼と活動報告があり
ました。参加者の中には緑の少年団
活動について知らない人もいることか
ら、緑の少年団活動について広く知っ
ていただく良い機会となりました。

その後大抽選会が行われ、特製積

み木セット、お米三箱(一箱三キログラム入り)、モモ三箱(一箱一、八キログラム入り)、福島ユナイテッドFCペアチケットなどの当選番号が読み上げられると、当選者は両手を挙げて歓声を上げ参加者から大きな拍手で祝福されていました。

閉会式の後、参加者たちはJA福島中央会から提供された協賛品のキュウリ、ナス、ピーマン、トマトの詰め合わせを受け取り家路につきました。

このようにして「森と遊ぶ交流会」は、あつという間に終了しましたが、特に参加した子どもたちは、それぞれ好きなプログラムを通して互いの絆を深め、夏休みの良い思い出となったことと思います。



ツリークライミング教室
(楽しくてもう降りたくない!)



森と遊ぶ交流会
(みんなで集合記念写真撮影、
楽しい一日でした)



火おこし体験
(私は火おこしの名人かも)



福島ユナイテッドFC選手とミニサッカー
ゲームを楽しむ子どもたち

平成二七年度は、別表のように約五、七二九万円のご寄付をいただきました。多くの県民の皆さま及び関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

緑の募金の使途につきましては、各地域の緑化推進委員会主催の「地方植樹祭」や「地方育樹祭」、緑の少年団育成事業の「緑の少年団活動実績発表大会」や「緑の少年団大会」、学校緑化活動促進事業や県内緑化公募事業等の学校やボランティア団体等を対象とした緑化活動への支援など、本県の緑化運動に役立ててまいります。

平成二七年度春季緑の募金実績がまとまりました
 ～多くの募金をお寄せいただき御礼申し上げます～



秋季緑の募金活動の実施について

秋季緑の募金活動は九月一日から十月三十一日までの二ヶ月間を「地球温暖化防止等に向けた緑の募金キャンペーン」として、「緑の羽根」着用の呼びかけ、緑の募金箱の設置等を実施いたします。

昨年八月に広島県で起きた記録的豪雨による大規模土砂災害や、本年九月の関東・東北豪雨において、本県は河川氾濫や土砂崩れ等で大きな被害を受け、茨城県、宮城県では広域的に冠水被害が発生するなど、全国各地で地球温暖化に起因すると思われる異常気象による自然災害が目立つようになってきました。今後そうした自然災害の増加が懸念されるなか、緑化推進、森林の整備等、緑の募金を通じた諸活動について一層の進展が求められています。皆さまのご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

募金に関するお問い合わせは、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局 緑化推進課（旧福島県緑化推進委員会）または各地域の緑化推進委員会までお尋ねください。

〒九六〇一八〇四三
 福島市中町五一八
 （福島県林業会館内）
 会 緑化推進局 緑化推進課
 TEL 〇二四一五二四一四八〇
 FAX 〇二四一五二二一三二四六

平成27年度「春季緑の募金」実績

単位：円

市・地方緑化推進委員会	募金目標額	募金実績額	達成率 (%)	募 金 の 種 類				
				街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金
福島市緑化推進委員会	9,300,000	3,911,138	42.1	111,250	0	1,669,957	722,884	1,407,047
伊達市緑化推進委員会	2,300,000	2,561,133	111.4	1,003	1,929,440	263,195	287,360	80,135
伊達郡緑化推進委員会	1,400,000	1,497,979	107.0	53,732	1,047,500	217,000	161,415	18,332
二本松市緑化推進委員会	2,100,000	0	0.0	0	0	0	0	0
本宮地域緑化推進委員会	1,300,000	1,567,054	120.5	124	918,190	437,596	123,284	87,860
国土緑化郡山市推進委員会	11,100,000	10,621,858	95.7	10,871	6,822,750	660,312	854,382	2,273,543
須賀川市緑化推進委員会	2,600,000	1,434,412	55.2	33,793	562	737,635	347,800	314,622
国土緑化岩瀬地方推進委員会	600,000	592,026	98.7	1,000	467,200	100	74,716	49,010
田村地方緑化推進委員会	2,600,000	3,438,946	132.3	46,347	2,361,300	405,646	572,015	53,638
国土緑化石川地方推進委員会	1,800,000	1,991,488	110.6	13,147	1,115,486	320,174	217,896	324,785
白河市緑化推進委員会	2,200,000	713,914	32.5	0	80,400	480,253	153,261	0
国土緑化西白河地方推進委員会	1,600,000	1,974,635	123.4	5,506	1,336,188	407,795	180,746	44,400
国土緑化東白川地方推進委員会	1,500,000	1,301,492	86.8	11,660	872,730	151,381	220,942	44,779
国土緑化会津若松市推進委員会	4,500,000	5,363,703	119.2	56,096	3,390,844	600,000	742,766	573,997
両沼地方緑化推進委員会	2,000,000	1,831,065	91.6	237	1,527,415	104,000	199,413	0
会津耶麻地方緑化推進委員会	1,200,000	1,363,972	113.7	871	1,004,400	80,000	136,798	141,903
喜多方市緑化推進委員会	2,000,000	2,405,489	120.3	46,013	1,603,500	302,000	453,976	0
南会津地方緑化推進委員会	1,400,000	1,737,060	124.1	60,881	1,414,061	69,000	170,158	22,960
相馬地方緑化推進委員会	4,400,000	362,792	8.2	0	0	0	362,792	0
双葉地方緑化推進委員会	2,600,000	0	0.0	0	0	0	0	0
いわき市緑化推進委員会	11,500,000	11,938,057	103.8	73,257	8,480,310	1,242,148	1,613,804	528,538
小 計	70,000,000	56,608,213	80.9	525,788	34,372,276	8,148,192	7,596,408	5,965,549
事 務 局	0	690,582	—	0	0	250,253	440,329	0
合 計	70,000,000	57,298,795	81.9	525,788	34,372,276	8,398,445	8,036,737	5,965,549

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む。

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 ー 7 ー

館のナシノキ

樹木医 鈴木俊行



「館のナシノキ」は「片倉のナシノキ」とも呼ばれ、二本松市上長折字片倉地内に生育している。

生育地は、二本松市東部の旧岩代町の中心地小浜地区にあり、戦国時代に伊達正宗が会津侵攻の拠点とした小浜城跡の東尾根の一角にあたる。地名の「片倉」は、正宗の重臣

である片倉小十郎の館が、この尾根上にあつたことによるといわれている。また本樹は、小十郎が館を置いた場所に自ら植えたという言い伝えもあり、「片倉のナシノキ」と呼ばれて親しまれている。
本樹は、小浜地区を通る国道四五九号から小浜小学校の前を通り過ぎ

て東側の尾根上の空堀跡と考えられる凹地の上部に生育し、樹齢は約四〇〇年と推定される巨樹である。
昭和五八年二月十七日に福島県緑の文化財に登録され、平成二年四月一日に二本松市天然記念物に指定されている。

樹種は、バラ科ナシ属のヤマナシで、本州から九州に分布する落葉高木である。

形状寸法は、樹高一五・八〇^{cm}、根元周四・九〇^{cm}、幹周四・三〇^{cm}の単幹の巨樹である。枝張りは、東一〇・二〇^{cm}、西一三・六〇^{cm}、南九・五〇^{cm}、北一二・七〇^{cm}と平均的に四方に枝を伸ばし樹冠を大きく広げ、こんもりとした美しい自然樹形を呈している。

樹勢は比較的良好であるが、樹冠頂部に中太枝の枯損が見られるほか、樹冠先端部に小枝の枯損があり、衰退の兆候も見られることが懸念される。また、本樹の南側がモウソウチク林で、このモウソウチクが本樹の根元まで進入してきているほか、樹冠を被圧している状況にあることから、今後の対応が必要である。
ヤマナシは白色の花をつ



けるが、本樹は白い花を五月上旬に咲かせ、開花期には全体が真っ白になるくらい見事となる。また、ピンポン玉くらいの実が十月初旬には黄褐色に熟し、ちょうど金色の鈴を樹冠一面にぶらさげたような見事な景觀となる。熟した果実は固くてまずいと言われるが、私は小さい頃からずいぶん食べたが、甘酸っぱくて美味しいと思う。果実はジャムや果実酒にも使われ、果樹として栽培されているナシは、このヤマナシから改良されたものである。

ヤマナシは北海道を除く日本各地に生育していて巨木も多いが、本樹は見事な単幹樹で、樹勢も良く、どっしりとした美しい自然樹形は見事で、単幹樹としては日本一のヤマナシではないかと思われる。

栽培わらびの出荷制限解除に向けた取り組みについて

■会津農林事務所
林業普及指導員 益子利江

喜多方市の栽培わらびについて、平成24年5月17日より原子力災害対策特別措置法に基づき出荷制限が指示されましたが、今年の5月15日に栽培わらびの安全性が確認され、出荷制限が解除されました。山菜類の解除の指示は、全国で初めての事例です。

当事務所では平成25年度から喜多方市と連携して、出荷制限解除に向けた取り組みを開始し、わらび生産者情報の把握や圃場の空間線量率、土壌中放射性セシウム濃度の測定、わらびモニタリング検査検体の採取等を行いました。併せて生産者から放射性物質対策に係るカリ施肥量について質問があったことから、まずは、圃場毎の状況を把握するため、事務所独自に喜多方農業普及所の協力を得て全圃場の土壌中交換性カリ含量を測定し施肥量について指導しました。そして、これらの調査等を通じて、生産者18名に対し福島県林業技術指針（特用林産：わらび）に基づく肥培管理や除草方法等についても指導を行い解除されたところです。

また、平成24年6月より喜多方市内に「わらび実証試験地」を設定して、カリ施肥、耕耘等の実施の有無による、わらび放射性セシウム濃度への影響等について比較検証しています。

今後は、これらの検証結果を生産指導に役立てるとともに、今年の秋には、わらび生産者を対象とした圃場管理に関する現地研修会を開催する予定です。引き続き、安全、安心かつ品質の良いわらびが生産されるように支援していきたいと考えています。

この春、出荷制限解除を受けて4年ぶりに管内の直売所に喜多方市産わらびが並びました。その姿は他の農産物と比べて誇らしく輝いても見えました。当管内では原発事故以降、生産意欲が低下している山菜やきのこ生産者も多いことから、今回のような取り組みが少しでも生産者の励みとなることを期待しています。



栽培わらびが出荷解除となった新聞掲載記事



現地調査及び指導状況



解除に向けた説明会状況



試験地調査状況

団体のページ

森林管理署メロ

戸倉山復旧
治山工事

白河支署の取組から一つ紹介させていただきます。

国道一一八号線を会津方向に進み、天栄村の羽鳥湖を過ぎると鶴沼川の対岸に大きな崩壊地が見えます。ここが戸倉山復旧治山工事の現場です。

平成二三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震とその後の余震及び降雨により崩壊したもので、崩壊地の面積は一・五〇㊦、標高差は約一八〇㊦あります。崩壊地の下方にある県道が崩壊土砂により寸断されました。今後、崩壊が拡大すると鶴沼川に崩落土砂が流入することが想定されるため河川閉塞を未然に防止する必要があります。加えて、国道から一望されることなどから、平成二四年度から復旧工事を実施しています。



復旧工事は、上部崩壊を防ぐために上部から不安定な岩石等を削り取り斜面を整形（法切工）、モルタルを吹付けて被覆すること（現場吹付法）から始めました。具体的には、最大傾斜七〇度、標高差一八〇㊦の長大な斜面ですので、危険度が高い高所作業となることからロッククライミングマシン（高所法面掘削機、略称RCM）という機械を用いて掘削作業を行っています。

RCMは従来のバックホウにウインチを搭載し、ワイヤーロープで支えて、斜面に張り付くようにして掘削作業する機械です。RCMには搭乗運転タイプとラジコン運転タイプがあり、この現場では両タイプを使用しています。現場吹付法は人力施工です。なお、資材等の運搬はモノレールで行っています。



施工地全景

今年度は、中段部分の法切工と現場吹付法を施工しています。国道脇に車を止め斜面を見つめる人が絶えません。

今後、下部斜面の施工に当たっては、上部に比べると傾斜が緩やかになることから、周辺林地の景観と調和を図るために植生を導入する工法を計画しています。

今後とも安全第一で工事を進め、平成三〇年度完成を目指して取り組みたいと考えています。

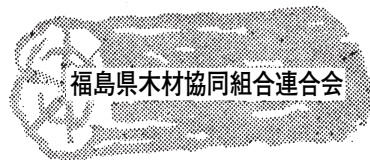


ロッククライミングマシン

木連だより

～「ふくしま型CLTチャレンジ事業」によるCLT推進に向けた検討が始まる～

県木材協同組合連合会は、県の補助事業「ふくしま型CLTチャレンジ事業」を活用し、CLT（直交集成板）の普及推進に向けた取り組みの検討をスタートさせました。産学官の連携により需要と供給の両面から、推進のための方策を探るもので、このほど作業部会となる供給ワーキンググループ（WG）の初会合（写真）を開催しました。



供給ワーキンググループ（WG）と需要ワーキンググループ（WG）を設置するとともに二つのWGをまとめる委員会を設け、統括を坂本雄三氏（建築研究所）に決定しました。
ア. 供給ワーキンググループ

素材の生産、CLTラミナ供給体制やCLT製造工場設置などについて検討。有馬孝禮氏（東京大学名誉教授）を座長に一回目の検討会を九月三日（木）に実施した。

イ. 需要ワーキンググループ

CLTの需要拡大に向け、建築設計基準や民間建築物への普及の方策等を検討予定。座長には、秋元孝之氏（芝浦工業大学）を選び、一回目の検討会を九月下旬に予定している。
② CLT等新製品・新技術の開発・普及技術研修会やシンポジウムを開催し、設計・建築士等へCLTの普及推進を図る。

2. CLT供給ワーキンググループ第

一回検討委員会の開催

平成二七年九月三日、ふくしま中町会館で開催されました。

① 産学官連携によるCLT推進検討委員会

県から県木連へ八月七日補助金が交付され、事業が始まりました。

(1) メンバー

供給WG	
座長:	東京大学 名誉教授 有馬孝禮
産:	素材生産 (福島県森林組合連合会、福島県素材生産協同組合) 製材加工・集成材 (ダイテック、オノツカ、協和木材、藤寿産業、キクモク、芳賀沼製作、田村森林組合)
学:	林業・木材産業 (岩手大学農学部 伊藤幸男准教授)
有:	製造・加工 (日本CLT協会、福島県CLT推進協議会)
官:	生産拠点・復興計画・林業振興 (関係市町村、県農林企画課・林業振興課)
オブザーバー:	復興庁・林野庁ほか
林業・製材・行政等で生産、供給体制・工場設置を検討	

(2) CLT製造工場の整備に向けた課題等

- ① 福島県の特徴
 - 九州三県と東北四県は日本を代表するスギの資源県であり、福島県においてCLTを核として林業・木材産業の再興を図ることは、県産スギの可能性を含め意義あること。
 - 特にCLTで木材を使うとするには林家、素材生産業者、各種木材産業の強い連携が必要。
- ② 「ふくしま型」とは福島県に合ったCLT建築工法等を検討すること、森林・林業・木材産業全ての関連産業の振興につながることを期待。
- ③ CLT製造施設と製造コスト
 - 現在は九州と中国地方に二ヶ所しかない。東日本のどの県で手を挙げるのか注目されている。



CLT供給ワーキンググループ第1回検討委員会

- 稼働率等を考慮すると、どの程度の規模の工場とするのか。
- CLTの単独工場か集成材製造と組み合わせた工場とするのか。
- 国の支援を考えると震災復興とからめることとなるのか。
- 欧州での製品単価六〜七万円/立方メートルの中で価格競争できるのか。
- 国産CLTのコスト低減には国内での需要拡大がカギ。
- ③ CLT（木材）の需要創出
 - マーケットはどこにあるのか。需要量をどれだけ伸ばせるか。
 - 直近は東京オリンピックに、そして当初は公共施設だが波がある。国・県・市町村の理解と覚悟が不可欠。
 - 既存の建築工法等との組み合わせで民間需要への広がり。
 - 木材の需要拡大に向け、公共施設の木造化促進法に次ぐ新たな法律の制定を働き掛ける。
 - 接着剤等の資材から金物接合等の建築、そして道交法など日本の基準は全ての面で厳しすぎる。



素材の価格〈工場着価格〉(7月15日現在)

(単位: m当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)	0	8 (8~9)	△1	9 (8~10)	0
		10~13		並	スギ	11 (10~12)	0	9 (9~9)	0	9 (9~10)	△2	10 (9~12)	△1
	中	14~18	3.00	並	スギ	10 (9~12)	0	12 (12~12)	0	9 (9~10)	△1	10 (9~12)	△1
				並	ヒノキ	12 (11~12)	△1	(0~0)	0	14 (13~16)	△2	13 (11~16)	△1
		6.00	並	スギ	15 (14~19)	△1	8 (8~8)	0	14 (14~15)	△2	14 (8~19)	0	
			並	ヒノキ	25 (24~25)	0	(0~0)	0	22 (19~24)	△1	23 (19~25)	△1	
	20~28	3.65	並	スギ	10 (9~11)	0	11 (11~12)	△1	9 (9~9)	△1	10 (9~12)	△1	
		4.00	並	アカマツ	8 (8~9)	△1	(0~0)	0	7 (6~8)	△1	8 (6~9)	0	
		1.80	並	アカマツ	5 (5~5)	△1	(0~0)	0	5 (4~7)	△1	5 (4~7)	△1	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	31 (27~35)	0	31 (27~35)	0
並				米マツ	35 (35~35)	0	29 (29~29)	△1	32 (29~35)	0	32 (29~35)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	28 (27~28)	1	28 (27~28)	1	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	34 (28~39)	1	34 (28~39)	1	
70~90		8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
パルプ用材	-	-	並	マツ	(5~5)	0	(0~0)	0	5 (5~5)	0	5 (5~5)	0	
			並	広葉樹	(7~7)	0	(0~0)	0	7 (7~7)	0	7 (7~7)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	12 (11~13)	0	10 (9~11)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

六月の原木市場への入荷状況は、前月比二割増(前年比四割減)の二四、三八八立方メートルとなつて、販売量については、前月比二割増(前年比五割減)の二四、一一一立方メートルとなっている。
 一、六月の取扱量は、入荷量は前年度ほぼ同量の二六一、七八二立方メートル、販売量は前年度二割減の一五八、七七二立方メートルとなっている。
 七月の価格については国産材に弱気配が続いている。



「森と遊ぶ交流会」に参加して

県北農林事務所森林林業部 鈴木浩治

全国植樹祭開催記念の「森と遊ぶ交流会」に家族で参加しましたので、家族の感想などを紹介します。

「久しぶりにフォレストパークを訪れた妻」

森の案内人の方のユーモア溢れた説明に引き込まれながら、森の中を散策できたことは、子供だけでなく大人も、驚くような知識が得られ大変勉強になりました。

普段の生活では、なかなか体験できない丸太切りや森の中の木の貯金箱作りなど、初めてチャレンジすることばかりで、夏休みのいい思い出になったばかりでなく、あらためて森林の大切さを考える良い機会となりました。

今後、また、このようなイベントが継続的に開催され、子供たちが森と接する機会が増えることによつて、森を大切にしてくれる子供たちがもつともっと増えることを期待します。



「初めてフォレストパークを訪れた娘」
 特に「丸太切りトライアル」がとても楽しかった。来年もチャレンジしたいと思います。
 私自身も交流会に参加し、以前、「緑・花文化の知識認定試験」を受験するために、週末に樹木図鑑を片手にフォレストパークを何度か訪れたことを思い出しました。
 これからも、家族で森林に親しむことを続けていきたいと思えます。

表紙の写真



「鎮守の森」

第29回ふくしま緑の写真コンクールで入選を受賞した河野善次さん（福島市）の作品。



けんか祭り

十月第一土曜日の夜は「飯坂けんか祭り」だ。「地車祭り」（大阪・岸和田）『飾山ばやし』（秋田・角館）とともに日本三大けんか祭りの異名をとる。いつまでも祭りが続くようにと神輿の宮入りを阻む屋台が激しくぶつかり合うことからこの名がついたと云われる。六台の太鼓屋台を担ぐ大勢の若衆は、各町内に若連や睦会という会に登録をし、町を離れていても、祭りの夜には屋台を担ぎにこの町に帰ってくる。そして負けじと打ち鳴らされる太鼓の調べは京都・祇園囃の流れを汲み、三百年余の伝統を誇る。揺れる提灯の灯明と人々の熱いエネルギーが秋の夜空を焦がし、太鼓の音が大地を轟かす。その音のうねりは、町の騒音を一瞬にして消し去り、飯坂の湯の町は祭一色となる。

日本には、春夏秋冬に二十万とも三十万ともいわれるほどの「祭り」があるらしい。人々は、祭りに、祈り・感謝・願い等々、生きる全てを込めてきた。また、お祭りの威勢のいいかけ声「わっしょい、わっしょい」は「和を背負う」から転じたらしい。背負うものは、祭りの生きた「伝統」や「心意気」だが、難しいことはさておき、祭を楽しむ気持ちが一番なのだろう。祭を楽しむ背中を見ながら次の世代が育っていく。

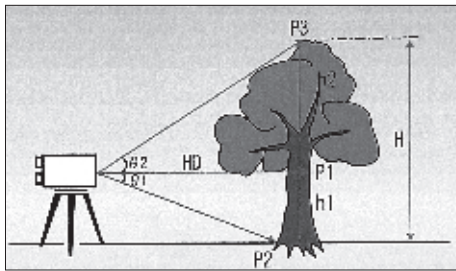
しかし、祭が終わった後、破損した屋台は修復され、来年の本番まで静かにその身を休める。そして、祭が終わると秋は一気に深まり、今度は、祭を静かに見守ってきた八幡神社の樹齢百年ほどの大イチョウが見事な色づきを見せる。その姿は、祭と同じくらい圧巻である。

（都）

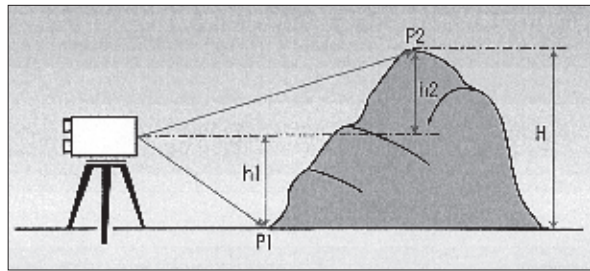
編集	福島県内四森林管理署 福島県森林・林業・緑化協会 福島県森林組合連合会 福島県木材協同組合連合会 福島県農林種苗農業協同組合 ふくしま緑の森づくり公社 森林総合研究所福島水源林整備事務所 福島県森林・林業・緑化協会 （福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人	相馬 雅俊 陽光社印刷株式会社
発行	（定価 一〇八円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

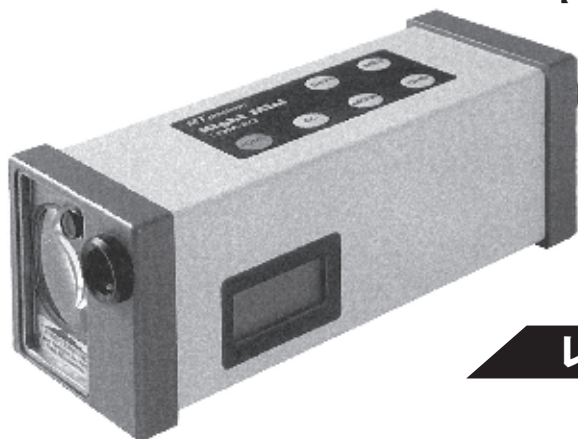


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5 mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定寸法	高さ・水平距離・斜距離
重量	W64・H64・D180
付属品	650 g
	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

ヤマビル対策に

マリックスター(駆除剤)

蜂さされ防止

ハチノックL(楽退治)
ハチノックS(携帯用)

タケを駆除する

クロレートS

**大切な日本の松を守る
住化グリーン**の林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート(茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。 機器はゼノアから

チッパシュレッダ



竹もOK!
SR3000-2
出力 22.3kW (質量1,330kg)
水冷ディーゼル
X379301020
¥3,375,000(税抜)

プロソー



GZ3900EZ
排気量 39.1cm³ (質量4.4kg)
RSP 21BPX 967159403 ¥108,000(税抜)
95VPX 967159303
HS 25AP 967159104
91VXL 967159204
HM 21BPX 967159404
95VPX 967159305



GZ4300EZ
排気量 43.1cm³ (質量4.4kg)
45cm(18")
RSP 21BPX 967160502 ¥133,700(税抜)
95VPX 967159902
HM 21BPX 967160504
95VPX 967159904

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店
(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1